

交通安全のポイント 高齢者編

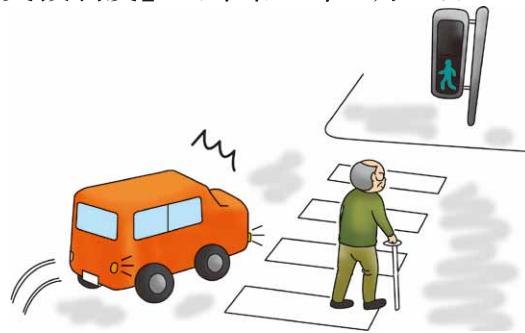
令和4年中の交通事故死者数28人のうち16人が高齢者です。また、16人のうち9人が歩行中の事故で、7人が道路を横断中に事故に遭っています。

ここでは、高齢者の主な事故事例を紹介していますので、今後の交通事故防止の参考としてください。

また、札幌市では、運転に不安のある高齢の方が、運転免許証の自主返納をするきっかけづくりとなる「さっぽろ圏高齢者運転免許証自主返納支援制度」を、令和2年4月15日から開始しています。

1 右左折車と衝突するパターン

考えられる原因



- 1 信号の変わり際に横断をする
- 2 右左折車の存在を意識していない

- 3 車が止まってくれると思い込んでいる
- 4 暗い色の服装でドライバーから見えにくい

2 左から来る車と衝突するパターン

考えられる原因



- 1 横断歩道外を横断する
- 2 右側(手前車線)から来る車のみ注意し、左側(奥の車線)から来る車を見落とす
- 3 車が止まってくれると思い込んでいる

- 4 加齢に伴う歩行速度低下を自覚せず車が来る前に渡りきれると思い込んでいる
- 5 足元ばかり注意し、車を見ていない
- 6 暗い色の服装でドライバーから見えにくい

運転者と歩行者の両輪対策が必要不可欠

高齢者は



- 自分の身体機能や判断力の低下を自覚する。
- 交通安全教室を受講するなど、交通安全に対する意識を高める。
- 外出時は、明るい色の服装と夜光反射材を身につけ、自ら事故防止に努める。
- 横断時の前後左右の確認を徹底する。

運転者は



- 人影を見たら、老若男女を問わず、その動静に最大の注意を払い、常にブレーキに足をかける準備行動を習慣づける。
- 高齢者の特性を理解し、「早期発見、安全確認、減速徐行」に努める。
- 右からの横断者は見落としやすいことを意識し、安全運転に努める。
- 運転に自信がなくなったら、「免許返納」も考えましょう。